

紙芝居 歴史年表

年	紙芝居の歴史 / ……は主な作品	世界と日本の動き
一九三〇	日本人の手により、手描きの街頭紙芝居として、紙芝居が誕生。 街頭紙芝居は、駄菓子を売るための人集めの道具だった。 『黄金バット』	世界大恐慌下、失業者があふれる。
一九三一		日本が中国、アジアへの侵略戦争を開始
一九三二		ドイツでナチスが結成される。
一九三五	キリスト教紙芝居、幼稚園紙芝居、 教材紙芝居などの紙芝居出版が始まる。 『ノアの洪水物語』『赤ツキンチャン』	
一九三七		南京大虐殺
一九三八	松永健哉らが「日本教育紙芝居協会」を設立。 『オサルノラッパ』『うづら』『芭蕉』『蜘蛛の糸』 『キツネノゲントウ』『太郎熊・次郎熊』『コトリノユメ』	国家総動員法発令
一九三九		ドイツ軍がポーランドに侵攻 第二次世界大戦始まる
一九四一	戦争宣伝のための紙芝居出版が、 国策としてさかんに行われるようになる。 『日本教育画劇株式会社』が設立され、 戦争賛美の紙芝居が大量に印刷される。 『軍神の母』『爪文字』『玉碎軍神部隊』	日本軍がハワイ真珠湾を攻撃
一九四三	出版される紙芝居はすべて戦意高揚のための国策紙芝居となり、 七十万〜八十万部も発行された。	
一九四五		日本降伏
一九四六	敗戦による経済混乱のなかで街頭紙芝居が復活。	
一九四七		日本国憲法施行
一九四八	戦後の文化運動のなかで教育紙芝居出版始まる。 『民主紙芝居人集団』創立。	
一九五五	『平和のちかい』『おかあさんのはなし』 『ぶたのいつつ』『〇と□と△ちゃん』	第一回原水爆禁止世界大会が開かれる
一九五七	紙芝居の出版社として童心社が創立。 出版紙芝居作品の流れがつけられる。	
一九六〇 ^{前後}	テレビの出現と普及により街頭紙芝居が衰退。 『天人のはごろも』『おうさまさぶちゃん』『おとうさん』	
一九六二	公共図書館での出版紙芝居の貸し出し始まる。 紙芝居の賞「五山賞」制定される。	安保条約改定阻止に約五八〇万人参加
一九六四		アメリカによるベトナム戦争始まる
一九七〇 ^{前後}	国内での絵本の出版が盛んになる。 市民活動のなかで多数の紙芝居サークルが生まれる。 『あひるのおうさま』『たべられたやまんば』『ロボット・カミイ』 『てんとうむしのテム』『ひよこちゃん』『おねぼうなじゃがいもさん』	
一九七五		ベトナム戦争終わる
一九八三	『おおきくおおきくおおきくなあれ』	
一九九一	ベトナムでの紙芝居講座始まる。	
一九九八	初めての紙芝居の理論書『紙芝居―共感のよろこび』が刊行される。	
一九九九	「出前紙芝居大学」始まる。	
二〇〇一	「紙芝居文化の会」が誕生。 ドイツ・スイス・フランスなどで紙芝居講座開催。 世代をこえてさまざまな場で、紙芝居が演じられるようになる。	アメリカで同時多発テロが起きる
二〇〇三		アメリカ・イギリス軍がイラクを攻撃
二〇一		「イラク戦争反対」などの平和運動がひろがる
二〇一二	ヨーロッパ紙芝居会議「平和のために紙芝居を」開催。	東日本大震災・原発事故が起こる

出典：『紙芝居百科』童心社